

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 5 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500905		
法人名	社会福祉法人 大村福祉会		
事業所名	グループホーム泉の里		
所在地	〒856-0831 長崎県大村市東本町583番地 (電 話) 0957-54-2105		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成21年4月20日	評価確定日	平成21年5月28日

【情報提供票より】 (平成20年4月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 9.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	R C 造り		
	10 階建ての 5 ～ 5 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	50,010 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ ー 円
	または1日当たり ー 円		

(4) 利用者の概要 (4 月 14 日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名
要介護 5	1 名	要支援 2	ー 名
年齢	平均 88.2 歳	最低 76 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たしろ医院 中村医院 野島歯科 長崎医療センター 市立病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、大村駅近くの「総合介護サービスセンタービル（10階建て）」の5階に位置しています。近隣には商店街（アーケード）があり、ご利用者の日常的な外出先にもなっています。また、交通の便の良い点は、ご家族からも喜ばれています。ベランダからは地域全体が一望でき、その景色から地域の状況が感じとれるようです。そのような環境の中で、スタッフは「その人らしく、いきいきと」の理念に基づく支援を常に確認しあいながら、心掛けられていることが感じとれます。経営主体が運営する様々な介護サービス事業との連携を活かした支援はホームの特徴の一つであり、他のサービスを利用されている方々との交流もご利用者にとって良い刺激になっているようです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 改善に向け取り組まれています。 前回の外部評価に基づき、改善計画書を作成し、優先順位にそって改善活動及び評価見直しが行われています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） スタッフ全員で評価に取り組み、課題の共有に努められています。 評価の意義について理解し、課題の共有化を目的にスタッフ全員で自己評価に取り組まれています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 会議開催の頻度について再考が必要です。 運営推進会議では、積極的な意見交換行われていることが議事録で確認できますが、年に2回程度の開催に留まっている状況です。頻度については、概ね2ヶ月に一回の開催が求められます。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） ご家族の意見を聴取する姿勢がうかがえます。 意見箱の設置や苦情受付担当者の設定、および面会時などにご家族との情報交換を心掛けられています。また、ご家族の意見を反映された実績も確認できます。今後も、ご意見や苦情の積極的な聴取によりサービスの質の向上につなげる取り組みが期待できます。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 積極的な活動が見受けられ、今後の取り組みにも期待できます。 近隣のアーケードでのカラオケ大会やひな祭りへの参加、ボランティアの積極的な受入なども行われています。総合消防訓練での地域との連携を含め、様々な関わりを大切にされる姿勢は、地域と共にご利用者を支えていこうとされる思いと結びつき、今後の活動にも期待がもてます。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく、いきいきと」の理念を掲げ、地域での生活を支えるケアの実践、利用者の笑顔を引き出すことを念頭に日々のケアに取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲示され、スタッフに対する説明は年度初めの会議で行われています。日常的な取り組みとしては、毎朝のミーティングで唱和されており、常に意識するよう努められています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	スタッフは、ご利用者と共に地域のイベントに参加されるなど、地域との関わりを大切にされています。また、地域の運動会の際には、会場設営にも参加されるなど、地域と協働する姿勢も見受けられます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はその意義の理解の浸透と課題の共有化を目的に、スタッフ全員で取り組まれており、外部評価の結果についても改善シートを作成され計画的な改善への取り組みが展開されています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議の開催実績は年に2回といった状況ですが、その議事録からは積極的な意見交換がなされていることが確認できます。また、今後は2ヶ月に一度の開催頻度の実現を目指されていく意向も聴取できました。	○	開催頻度については、2ヶ月に1回を実現されるよう今後の取り組みについて期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月市よりふれあい相談員が来所され、ご利用者との交流やスタッフとの情報交換および相談事項にも応じていただくなど連携されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理等は毎月報告書を郵送しご家族に報告されています。その他ご本人の日頃の様子については面会時および電話等で伝えられています。現在、休止となっているホーム便りの発行も再開される予定です。	○	文面でのご利用者の様子の報告及び再開される予定のホーム便りを活用した職員の異動に関するご家族へのお知らせなど、今後の取り組みに期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情受付窓口の設置などと共に面会時にもご家族からの意見の聴取に努められています。聴き取られた意見に対してはすぐに協議され、返答または改善された事例が確認できます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動はなく、新人に対しては教育係が教育するよう体制がとられています。勤務に対してもスタッフの希望を把握した上での配慮を心掛けられており、働きやすい職場にすることで利用者に影響を与える職員の離職を抑制するよう心掛けられています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフは、年間平均5～6回程度の外部研修を受講されています。資格取得にも配慮されており、新採用者には教育係による教育が行われています。また、年間及び月間の目標設定とその自己評価が実施されており、管理者がスタッフの思いを確認される仕組みにもつながっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会にて開催される研修や勉強会には6～8名のスタッフが参加され、積極的に自己研鑽や交流を図られています。ホーム間の相互訪問にも取り組まれています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族が来所されての入居申し込みの際も、必ずご本人と面会されているとのこと。入居直後は、ご利用者の状況に合わせてご家族やケアマネジャーとの連絡相談を積極的に行い、その情報を活用した支援により馴染みの関係の早期構築を目指されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、ご利用者に対し人生の先輩として接するよう心掛けられています。ご利用者が詩吟の先生となり、スタッフが指導を受ける場面もあるようです。また、日常的には、おかずのやり取りや肩の叩きあいなどの光景も見受けられるようです。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者基本データや経過記録を基にケアが行われています。また、ご家族や看護師からの情報やスタッフが得た気付きは、ミーティングにおいて全スタッフで共有し、それらを活かした意向の把握に努められています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、基本データおよび経過記録の情報を基に案が作成され、その案を基にスタッフ間で話し合いがもたれています。その後、ご家族に提示し意見を求める形で介護計画が確定されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1度行われており、定期的計画更新は6ヶ月毎に行われています。また、必要に応じ随時の計画変更が生じた場合は、セクション会議やミーティングでその情報が共有されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じた受診支援、美容室やその他外出のご希望にもできるだけ応えるよう柔軟な対応をされています。入院中の知人のお見舞いを支援された事例も聴取できました。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は希望に応じて選択されています。かかりつけ医のほか、以前から利用されている医療機関への通院や往診も支援されています。また、血液検査や受診の結果については、ファイリングされ、スタッフ間で共有されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を定めて、入居時にご家族に説明し同意を得られる仕組みがあります。現在のところ看取りを行った事例はないとのことですが、グループホーム協議会において終末期についての勉強会に主となって取り組まれるなど、積極的な姿勢はうかがえます。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する規程や同意書が整備されており、その人に応じた声かけなどについても配慮されています。日頃から「介護させていただいている」との思いを大切にされていることがうかがい知れます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方にはある程度の流れはあるものの、観察や会話にて一人ひとりの意向を汲み取り、決して無理強いすることなくご本人のペースを大切にされています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずはビル内で集中調理されており、各ユニットではご飯と味噌汁が作られています。ホームでは食事中の会話を大切にされており、スタッフを交えておかずのやり取りなどを行いながら楽しく食事をされている光景が訪問時にも見受けられました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能となっており、希望に応じて入浴されています。入浴以外にも手浴・足浴も行われており、全介助の方は、併設の施設でリフト浴を活用されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の会話や行動からご利用者の趣味や得意ごとを把握し、それを活かした役割や活動などの機会を設定されています。同法人の他事業所で開催される習字教室に参加されたり、ホーム内の花活けや洗濯物たたみ、食器拭きなどに参加されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の状態や季節的な配慮のもと、散歩や買い物などに出かけられています。また、ベランダで栽培されている花への水やりや洗濯物を干す際にも、外の空気を感じ、見晴らしの良い景色を楽しまれています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関となる部分には鍵はかけられておらず、ご利用者の行動に寄り添い見守ることを基本とされています。階段部分の扉には安全面から鈴が付けられています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	毎月消防訓練を実施し、年に2回は総合消防訓練が行われています。総合消防訓練には、消防署、消防団、地域住民の方々も参加されています。また、災害時の食料品などの備蓄もビル内で一括管理されているとのことです。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士により作成され、個別に、量、形態などにも配慮されています。また、食事や水分の摂取量も記録され、常に把握されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者への影響や季節を考慮し、随時壁面の飾り付けなどを変え変化を感じられる環境づくりを行われています。スタッフの役割に季節担当を設け、その担当者を中心に花などが飾られています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みに制限はなく、自由となっています。訪問時には、タンスやソファ、テーブルやイスなどの家具類のほか、位牌や時計、鉢植えなどの持込みも確認できました。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。